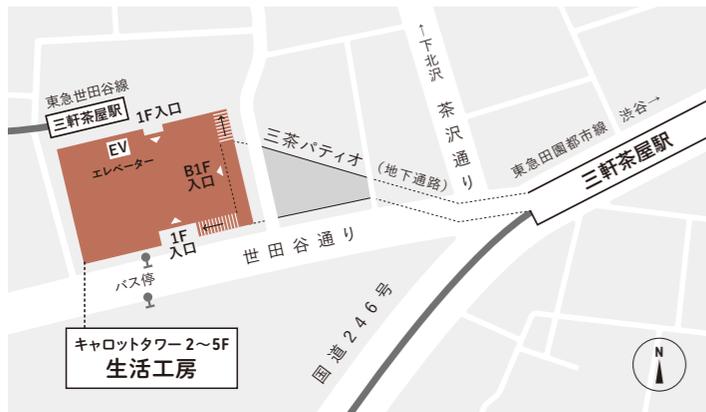


施設案内	
5F	セミナールームA・B 生活工房受付 <div style="float: right;"> </div>
4F	ワークショップルームA・B <div style="float: right;"> </div>
3F	生活工房ギャラリー 市民活動支援コーナー <div style="float: right;"> </div>
2F	八角堂 <div style="float: right;"> </div>

- トイレにはおむつ交換台があります。個室にチャイルドシートはありません。
 - 5Fには授乳室、3Fの多目的トイレにはオストメイト用設備を備えています。
- 施設のご利用について 詳しくは生活工房ホームページをご覧ください。

アクセス



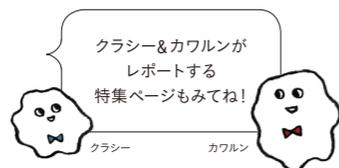
- 東急田園都市線「三軒茶屋」駅 三茶パティオ徒歩5分
地下通路よりB1F入口に入り、キャロットタワー内のエレベーターをご利用ください。
- 東急世田谷線「三軒茶屋」駅 直結 ●東急・小田急バス「三軒茶屋」停留所そば

お問い合わせ

(公財) せたがや文化財団 世田谷文化生活情報センター 生活工房
 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
 TEL 03-5432-1543 / FAX 03-5432-1559

website <http://www.setagaya-ldc.net/>

twitter facebook Instagram



クラシー&カワルンが
レポートする
特集ページもみてね!

クラシー カワルン



最寄りのバス停 (撮影: 中村絵美)

北海道江別市の世田谷部落*をご存知でしょうか?

北の〈世田谷〉は、石狩川とその支流の世田豊平川、豊平川に挟まれた野幌原野の三角州に位置しています。1945年7月、食糧増産を目的とする「拓北農兵隊」として、東京都世田谷区から入植した33世帯がその名の由来です。エノケン一座の役者や音楽家、大学講師などさまざまな経歴を持つ彼らは、数多くの困難を乗り越えながら、農耕作に適さない過酷な泥炭地を切り拓きました。

その一方で、終戦まもなく共同で建てた「世田谷倶楽部」で、文学・思想・詩・音楽・書道・英語などを子どもたちに教えるはじめます。さらに1947年に創刊した機関誌『新雪』では、日々の暮らしを

EXHIBITION

※関連イベントは中面をご覧ください

新雪の時代 — 江別市世田谷の暮らしと文化

1.26 (土) → 3.10 (日) 9:00~20:00 入場無料 会場: 生活工房ギャラリー

PICK UP
1

映像の
タイムカプセルをひらく



「映像のフィールドワーク・ラボvol.3」(2018年3月開催) 風景

PICK UP
2

1952年、第2次世界大戦の敗戦後間もないドイツの国立科学映画研究所で、ある壮大なプロジェクトが始まりました。その名は「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ」(以下「ECフィルム」)。世界中の知の記録を集積することを目指した、「映像による百科事典」です。以来40年余りの歳月をかけ、あまたの研究者やカメラマンが世界各地に派遣され、その地に生きる人々の暮らしや儀礼、動植物の生命活動をフィルムに収めました。映像の総数は、実に3000タイトル以上に及びます。

その映像群には、人類が誕生してから連綿とつないできた、「生」そのものが記録されています。道

具を作り、狩りをし、果実を集め、土を耕し、料理して食べ、紐を縫い、衣服を作り、住居を建て、身を飾り、時に祈り、踊り歌い、子を産み育てる—。これらの映像を記録した人々は、未来の私たちに、何を伝え、残したかったのでしょうか。タイムカプセルの中身を現代に活かせるかどうかは、私たち自身の手委ねられています。

本展では、いまだ全容が解明されていないECフィルムの映像群を、住処/音楽/儀礼/料理などいくつかのキーワードで拾い集め、会場内のあちこちで投影します。映像のなかの世界を紐解くように探索し、来場者の発見を展示に反映していく参加型の展覧会です。

EXHIBITION

映像のフィールドワーク展

20世紀の映像百科事典をひらく

3.16 (土) → 4.7 (日) 月曜休み 11:00~19:00 入場無料
 会場: ワークショップルームA・B / 生活工房ギャラリー

2019 EVENT GUIDE

1
JANUARY

2
FEBRUARY

3
MARCH

みる×しる×つくる＝暮らしがわかる。

1・2・3月の生活工房

SEMINAR

哲学対話 PARA SHIF

パラダイムシフト PARADIGM SHIFT—。それは当たり前と思っている考え方が劇的に変わる体験のこと。本企画は、世田谷のまちに飛び出して開催する大人のためのゼミナールです。哲学者と哲学の「概念」について対話しながら、日々PARA SHIFを起こすことを目指します。



『GG JAPAN』2013年3月号 Photographed by Ichiro Kumada © CONDÉ NAST JAPAN. All rights reserved.

① 中動態

2.2 (土) 19:30～21:30

会場：SNOW SHOVELING BOOKS & GALLERY (東京都世田谷区深沢4-35-7 2F)

古語の言語には「する(能動態)」「される(受動態)」のどちらでもない「中動態」という態が存在していました。生活のなかに中動態の概念を取り入れることで、ものの見方はどう変化するか考えます。

② 自由

2.9 (土) 19:30～21:30 会場：SNOW SHOVELING BOOKS & GALLERY

日々起こる全ての事柄には「原因」があり、自由の下、自分で決めていると思っていることも、実は他の原因に決定させられているのかもしれない。哲学者たちの「自由」の概念を学びながら、この難問に挑みます。

講師 國分功一郎(哲学者) 参加費 各日4,000円(飲み物・菓子付)／各日20名(抽選) 申込 1月10日(必着)までにメール(応募理由もお聞かせください)にて ※YouTube上で一部公開することを前提に両日撮影が入ります。

第27回 国際交流 in せたがや 2019

2.16 (土) 13:00～15:45

会場：ワークショップルームA・B

在日外国人との文化交流会を開催。各国大使館の展示ブースやお茶・和服着付け体験などを通して、互いの理解を深めます。



昨年の様子

共催 世田谷海外研修者の会 参加費 1,000円(飲み物・菓子付) 申込 2月10日までに世田谷海外研修者の会・津森(TEL 03-3324-1408)へ

イシス編集学校×生活工房 情報編集力連続講座 vol.5

キーワードからはじまる「自分らしさ」の編集術

2.24(日) | 3.10(日) | 17(日) 13:00～16:00 ※3回完結

会場：セミナールームA・B(2月24日、3月10日) イシス編集学校「本楼(世田谷区赤堤)」(3月17日)

自分をあらわすキーワードの収集・連想によって「自分らしさ」を再発見しながら、「編集力」の向上を試みます。情報編集の「型」を用いて、新しい見方や表現方法を体験する連続講座です。



共催 イシス編集学校 参加費 5,000円/40名(申込先着) 申込 1月5日10:00より電話かメールにて

SEMINAR

NPO・市民活動のためのステップ・アップ講座

組織づくりのためのヒント／コツを学ぼう!! <広報編>

第3回「伝えるコツ そうだったのか!」

2.12 (火) 19:00～21:30 会場：セミナールームA・B

第4回「伝えるコツ プレゼンテーション」

2.19 (火) 19:00～21:30 会場：セミナールームA・B

「伝えるコツ」は、電通が社会貢献活動の一環として、NPOとともに取り組んでいるプロジェクトです。オリジナル・テキストを活用した講座をとおして、NPOや市民活動に特化した広報の考え方やプレゼンテーションを学びます。

講師進行 鶴保正明(鶴保正明ブランド広告事務所/クリエイティブ・ディレクター) 企画進行 株式会社世田谷社 対象：NPO等の団体スタッフ・役員、その他ご関心のある方 参加費 各回1,000円(1団体から複数参加の場合、2人目から半額)／各回30名(申込先着) 申込 12月25日10:00より電話かメールにて

EVENT

穴アーカイブ:an-archive

8ミリフィルム鑑賞会 特別編

3.10 (日) 14:00～15:30 入場無料

会場：ワークショップルームA

8ミリフィルムのアーカイブ・プロジェクトとして、2015年からはじまった穴アーカイブ。今回は、これまでデジタル化した約12時間ものフィルムをあらためてお披露目するとともに、すべての映像を収録した目録を配布します。移り行く昭和の世田谷をお楽しみください。



『あこがれの大島へ』昭和11年6月6日

進行 松本篤(remo [NPO法人記録と表現とメディアのための組織]) 参加費 無料/40名(当日先着) 申込 不要、直接会場へ

EXHIBITION

映像のフィールドワーク展

20世紀の映像百科事典をひらく

3.16 (土) → 4.7 (日) 月曜休み

11:00～19:00 入場無料 会場：ワークショップルームA・B 生活工房ギャラリー

特別協力：公益財団法人下中記念財団 企画制作：ECフィルム活用チーム(下中菜穂(造形作家)、丹羽羽子(文化人類学者)) 協力：東京工芸大学ソフトウェアデザイン室 野口靖、(株)ポレポレ東中野、(株)東京シネマ新社

映像の百科事典「エンサイクロペディア・シネマトグラフィカ」が記録した生命の営みを、未来に向けて紐解いていく展覧会。

※詳細および関連イベントは2月上旬にホームページでお知らせします。

EVENT

陸前高田の8年の記録を読みなおす／声に出す

2020年開催予定の展覧会「震災後、オリンピック前夜(仮)」のプレ企画。岩手県陸前高田市で震災後の風景と人びとのことばを記録し続けるアーティストとともに、被災地と東京の月日を行き来しながら、2011年からの8年間でじっくりふりかえります。

① レクチャー

「2011年—2014年 津波のあとの草はら」

3.16 (土) 14:00～17:00 会場：セミナールームA・B

「2015年—2018年 復興工事とまちの再開」

3.17 (日) 14:00～17:00 会場：セミナールームA・B

震災直後の4年間で復興工事が始まってからの4年間に分けて、被災地における風景や人の変化を、写真や映像とともに作家の視点でお話しします。

講師 小森はるか(映像作家)、瀬尾夏美(画家・作家) 参加費 各回500円/各回40名(申込先着) 申込 1月25日10時より電話かメールにて

② 身体ワークショップ

「記録」から「フィクション」をはじめめる／声を出す」

3.23 (土) 13:00～18:00 会場：セミナールームA・B

震災の記録資料から他者の体験や言葉を受け取り、自分を通して声に出し、体を動かしながら、新たな身体表現を試みます。経験不問です。

講師 砂連尾理(ダンサー) 対象 中学生以上 参加費 1,000円/15名(抽選) 申込 3月4日(必着)までに往復ハガキかメールにて

SEMINAR

朗読講座 豊かなことばの世界

ことばの持つ豊さ、力、輝きを「朗読」を通して体感します。NHK日本語センターアナウンサーが講師となり、声の出し方、読み方などを丁寧に指導します。

① 水曜講座(午前・午後) <名作を読む>

2.6(水) | 13(水) | 20(水) | 27(水) 各回10:30～12:30/13:30～15:30 講師：岩井正(NHK日本語センター) 作品：三浦哲郎著『とんかつ』

② 木曜講座(午後) <はじめての朗読>

2.7(木) | 14(木) | 21(木) | 28(木) 各回13:30～15:30 講師：秋山隆(NHK日本語センター) 作品：吉村昭著『梅の蕾』

③ 金曜講座(午後) <はじめての朗読>

2.1(金) | 8(金) | 22(金) | 3.1(金) 各回13:30～15:30 講師：金野正人(NHK日本語センター) 作品：夏目漱石著『吾輩は猫である』

会場：セミナールームA 受講料(4回分)：一般20,500円、せたがやアーツカード会員18,500円/15名(申込先着) 問・申込：(一財)NHK放送研修センター TEL 03-3415-7121(受付時間9:00～18:00) HP http://www.nhk-cti.jp/

豊かなことばの世界 朗読発表会

3.3(日) 13:30～16:00 会場：セミナールームA・B

朗読講座受講生による公開発表会。ことばが開く豊かな時間を体感してください。

参加費 無料/50名(当日先着、途中入退場可) 申込 不要、直接会場へ

関連プログラム

ワークショップ/セミナーの申込方法

●電話 03-5432-1543 ●往復ハガキ/メール [希望イベント名・希望日時・住所・氏名・年齢(学生は学校名・学年も)・電話番号を明記の上、下記宛先まで] ハガキ:154-0004 世田谷区太子堂4-1-1キャロットタワー 生活工房宛 メール: info@setagaya-ldc.net (件名に希望イベント名を明記)



EXHIBITION

眞田岳彦ディレクション

祝いの衣服 赤をめぐる旅展 vol.3 文様を訪ねて

2018 12.19 (水) → 1.20 (日)

月曜、年末年始休館(12.29～1.3)

11:00～19:00 入場無料

会場：ワークショップルームA・B 生活工房ギャラリー

企画制作：眞田岳彦(衣服造形家) 協力：女子美術大学美術館 他



円際 en-sai, 2018 (制作：眞田岳彦)

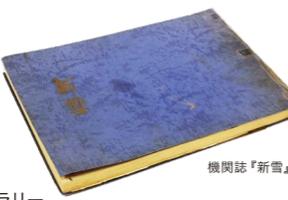
縄文時代から表象されてきた「文様」の世界。自然と共存してきた日本人ならではの美意識について紐解きます。生活のなかに息づく祝いの心を探りながら、衣服造形家・眞田岳彦さんが新たな衣服作品を提案します。

新雪の時代

—江別市世田谷の暮らしと文化

1.26 (土) → 3.10 (日)

9:00～20:00 入場無料 会場：生活工房ギャラリー



機関誌『新雪』

北海道江別市角山地区、通称・世田谷。1945年に世田谷区から入植した人々が創刊した機関誌『新雪』を中心に、彼らが抱いた文化を紹介します。

レクチャー：空襲と移住 — 焼け出された人々の記憶をめぐる

2.11(月・祝) 14:00～15:30 会場：ワークショップルームA

世田谷に限らず、東京の空襲がきっかけとなって移住を余儀なくされた人々は少なくありません。本レクチャーでは、社会学の立場から空襲や拓北農兵隊について研究されている方のお話を伺い、そうした記憶との向き合い方や継承について考えます。

講師 木村豊(筑波大学人文社会系研究員) 参加費 500円/40名(申込先着) 申込 12月25日10:00より電話かメールにて

特別上映：劇団「川」第35回公演『北の世田谷物語』

3.9(土) | 10(日) ①11:00～14:00 ②15:00～18:00 会場：ワークショップルームB

1994年に江別市の劇団「川」が上演した『北の世田谷物語』。本作の公演記録を上映します。上野駅で「拓北農兵隊」として見送られるシーンから世田谷倶楽部の活動まで、北の世田谷を知る上でも貴重な演劇記録です。

参加費 無料/各回50名(当日先着、途中入退場可) 申込 不要、直接会場へ

関連プログラム